

色の濃淡（3色配色）を組み合わせたチェック織物の視覚特性
朴 美愛 ○ 成瀬 信子（文化女大）

目的 テキスタイルデザインとして基本であるチェック柄について、同一色系の濃淡を組み合わせた配色について、2色配色と3色配色のチェック柄の視覚特性について、比較検討し、3色配色に対する考え方をまとめる。

方法 試料はチェックの幅を黄金分割比（1.2cm、1.9cm、3.1cm）の3段階とし、青、赤、黄系で、一つのチェック内では同色系の濃・中・淡色を組み合わせて、12試料ずつ作製した。前報と同一の官能検査を行い、一試料ごとの相対明度、相対彩度と官能量間との関連性を解析し、色系によって、視覚的刺激がどのように異なるか、また2色配色と3色配色との差異を明らかにした。

結果 1. 3色配色は2色配色よりも、全体的に西洋的、現代的で、色系に関係なく装飾的である。2. 3色配色の赤系で、色の配置とよこチェック幅が同じで、たてチェック幅だけ違う場合、たてチェック幅が小さい場合が大きい場合より、派手であると感じる。3. 青系は2色配色の方が3色配色より相対彩度と官能量間の相関性が高いが、赤系と黄系の場合はその傾向が顕著でない。